

多様な生き物との共生を考える

人間活動による地球環境への負荷は、産業革命以降拡大し続けています。環境学者ロックストロームらは、2009年に「地球の限界」という概念を提出し、人類の活動がある転換点を超過してしまうと後戻りできなくなる「不可逆的かつ急激な環境変化」が起こる危険性を喚起しました（注）。そして、既に転換点を超過しているプロセスとして、気候変動や窒素循環の攪乱とともに指摘されたのが生物多様性の損失でした。

これら3つのプロセスは、化石燃料の大量消費、土地利用の大規模な転換、窒素肥料の多量生産・消費など、産業社会における資源利用と消費のあり方と深く関わっています。生物多様性は、地球上に満遍なく見られるものではなく、特に多くの生物種が生息している珊瑚礁や熱帯林などは特定地域に集中して見られ、多くは発展途上国に分布しています。熱帯林を例に生物多様性が減少している主な原因をみてみましょう。発展途上国は、森林伐採や地下資源採掘を行ない、また工業的な農業や畜産を推進するために森林を換金作物のプランテーションや牧場に変えることで熱帯林を減少させてきました。いずれも、先進国が必要とする資源を生産し、輸出するためです。

熱帯林の減少は、国際的な市場システムを通じて先進国の生物多様性にも関わっています。日本は、熱帯林から切り出された木材を多く輸入してきた国の一つですが、安価な輸入木材の消費は国内の林業を低迷させ、森林の荒廃を招いてきました。農林業の不振は、各地の農山村の周辺に発達していた里山生態系に大きな影響を与え、かつて日本人の生活に身近だったメダカやギフチョウのような生物を絶滅の危機に追いやっています。

生物多様性の減少は、グローバルな経済とローカルな生態学の両方が相互作用して起こっている複合的な現象です。これを食い止めるためには、地域レベルの対処では限界があります。人間活動と生物多様性の関係について研究を進めるとともに、先進国と発展途上国間の経済格差（南北問題）や、科学の発展による技術革新と常に経済成長が求められる資本主義経済が組み合わさることによって世界中で開発が止められなくなってしまう問題、そして必ずしも経済価値に還元できない生物多様性の価値の多元性に向き合う必要があるのです。

<考えてみよう>

- ✓ あなたの生活は、どのように生物多様性の消滅に関わっているでしょうか？
- ✓ 希少生物を工業や薬用に資源化することは、熱帯林保全にどう影響するでしょうか？
- ✓ 生物多様性には、学術的、経済的な価値の他にどのような価値があると思いますか？

（注）Rockström, J. et al. (2009). A safe operating space for humanity. *Nature*, 461(7263), 472-475.